

第 4 回町田市長期計画審議会議事概要

1 **開催日時** 令和 2 年 2 月 3 日（月） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 30 分

2 **開催場所** 町田市庁舎 2 階 会議室 2 - 1

3 **出席者**

<委員>

（学識）大久保英敏会長、三輪律江職務代理、芳賀博委員、小林保子委員

（市民団体）深澤勝委員、安達廣美委員、小野敏明委員、大野太郎委員、清原理委員、

野澤哲也委員、櫻本千恵子委員

欠席：（市民団体）上坂孝博委員

<事務局>

浦田企画政策課長、押切経営改革室課長、

樋口企画政策課未来づくり担当課長、本郷企画政策課担当課長、

（企画政策課）山田、山岸、新井、（経営改革室）近藤、堀

4 **傍聴者**

2 名

5 **次第**

1 開会

2 報告事項

（1）第 3 回審議会の振り返り

（2）まちづくりの方向性について

（3）行政経営の方向性について

3 議事

（1）なりたいまちの姿（都市像）について

（2）行政経営のあり方（経営像）について

（3）基本構想の骨子案について

4 その他

（1）現行計画に対する市民意見について

（2）キャッチコピーの検討状況について

6 **報告事項**

（1）第 3 回審議会の振り返り

（事務局より、資料 1 「第 3 回町田市長期計画審議会議事概要」について説明）

○ 委員からの意見はなし

(2) まちづくりの方向性について

(事務局より、資料2-1「まちづくりの方向性について(12月16日長期計画審議会提出資料)」、資料2-2「まちづくりの方向性について(長期計画審議会意見反映後資料)」について説明)

○ 事務局

「まちづくりの方向性2」における「ちょっといい」という表現は、市民に我慢を強いることではなく、市民のQOLが昨日よりも良くなり、周辺地域よりも高い水準を維持することを想定しているがよろしいか。

○ 大久保会長

事務局の説明に対して意見はあるか。前回は「ちょっといい」という文言について議論されていたが、私は事務局の意見で問題ないと考えている。

○ 三輪委員

昨日よりも今日が良くなるといったステップを表現していくことは良いと思う。

○ 大久保会長

我慢を強いるといった誤解を与えないようにしなければならない。

○ 三輪委員

数値目標を設定することはふさわしくないと思うが、行政として表に出す資料である以上、数値目標が設定しやすい表現の方が良いということを懸念しているのではないか。

○ 清原委員

方向としてはいいと思う。「ちょっといい環境」は住環境のことを指していると考えているが、環境の定義について説明ができるようにすべきではないか。

○ 事務局

環境の定義を説明できるようにする。

○ 大久保会長

全てのことを含んでしまうが、私の認識では、環境は自己に対する他者を意味する。

○ 大野委員

3番目の「人と人がつながりながら」については、「家族のように」という文言がふさわしくないという理由で変更されたと思うが、含まれる要素の欄に「まちが家族する」という言葉が残っている。再考の必要があるのではないか。

資料2-2に「学ぶ」というキーワードがなかった。このキーワードは「なりたいまちの姿」や「行政経営の方向性」にも含まれていない。これまでの町田市取組の達成度を見た時、生涯教育については目標を下回っている現状にあるため、生涯教育に関する項目を加筆すべきではないか。

○ 大久保会長

「まちが家族する」について、市民の意見を踏まえた上で、「家族」という文言を用いているのか。

○ 事務局

その通りである。タウンミーティングで出てきた意見であったので、資料に反映させている。

「学ぶ」に関しては、3番目のまちづくりの方向性の4段落目にある「自分たちが必要なことを考えて地域をつくり続けていく」という文言に含まれている。

○ 大久保会長

町田市は大学が多く、学園都市のイメージもあるので、もう少し「学ぶ」について強調しても良いと考える。

○ 小林委員

2番目のまちづくりの方向性の5段落目にある「住む人、働く人、近隣に暮らす人たちまでもがワクワクできる」に「学ぶ人」という文言を加筆しても良いのではないかと。また、学びがあることでワクワクするという旨を説明しても良いと考える。

○ 大久保会長

2番目のまちづくりの方向性の5段落目に、学びに関する文言を付け足すといった意見であったが、他に意見はあるか。特になければ、「まちが家族する」について、意見をいただきたい。

○ 三輪委員

含まれる要素の欄はずっと記載されるのか。

○ 事務局

含まれる要素の欄は、考え方を示すためにあるので、最終的には削除する。

○ 大久保会長

そうであるならば、「まちが家族する」については残すことにする。

○ 三輪委員

「学び」について、3番目のまちづくりの方向性の4段落目で「自分たちが必要なことを考えて学び合う」という表現でも良いのではないかと。

○ 大久保会長

表現の変更に意見はないか。特に意見がなければ、2番目だけではなく3番目のまちづくりの方向性でもそのように修正していただきたい。

○ 事務局（本郷）

承知した。

○ 大久保会長

他に意見はあるか。

○ 芳賀委員

含まれる要素の欄は表に出さないとのことであったが、1番目のまちづくりの方向性の含まれる要素の欄に子どもに関する言葉が多いと感じる。また説明文の中にもそのような言葉が多いように感じる。最終段落の「みんな」を高齢者や障がい者のようにより具体化する必要があるのではないか。

○ 大久保会長

説明文中に具体的な対象を加筆するという意味か。

○ 芳賀委員

含まれる要素の欄が表に出ないため、説明文への加筆が必要と感じた。

○ 大久保会長

最終段落の「子どもを起点に」の後に加筆しても良いのではないか。

○ 芳賀委員

現在、認知症施策推進委員会に関わっているが、「認知症に優しいまち」ということをキーワードにしている。この資料で認知症に触れる必要はないが、高齢者について触れても良いのではないか。

○ 清原委員

3番目のまちづくりの方向性の「多様な価値を尊重しあう」の中に、芳賀委員のお話が含まれていると考えている。

○ 芳賀委員

「多様な人たち」と「優しい」という言葉が直結すると良い。

○ 大久保会長

現状の通り「みんな」を用いるか、それとも高齢者等の文言を用いるか、委員の意見を聞きたい。

○ 芳賀委員

40年後のことを想定した際に、後期高齢者が増加することを踏まえると、高齢者という文言も入れても良いと考える。

○ 大久保会長

「みんな」を「老若男女」に変更しても良いと考える。

○ 芳賀委員

あるいは「子ども、高齢者、障がい者にやさしいまちは、みんなにやさしいまち」としても良い。

○ 清原委員

3番目のまちづくりの方向性では、多様性のことを言っており、1番目については、高齢者にとっても子どものことを大切にしないといけないという強い意思を示していると感じている。そのように対象を切り分けることは問題ないと考える。

○ 大久保会長

1番目のまちづくりの方向性について、現状の通りで問題ないという意見と、子どもだけでなく高齢者も含ませた方が良いという意見が挙げられている。

○ 三輪委員

町田市が、含まれる要素の欄にある「CFCI」の活動に注力していることから、子どもに焦点を当てることを方向性として示すことは問題ないとする。

○ 大久保会長

他に意見はないか。

○ 小林委員

「子どもを起点に、一人ひとりにやさしいまちづくり」といった表現でも良いのではないか。子どもを起点にするが、一人ひとりにやさしいまちづくりを進めることを示すことができる。

○ 大久保会長

「一人ひとり」を加筆することは良いアイデアであるとするが、「子どもを起点に」の後に加えると文章が難しくなる。

○ 小林委員

または、「誰もが大切にされる」といった表現でも良い。

○ 事務局

時間が迫っていることから、会長と事務局で一度相談させていただきたい。

○ 大久保会長

出てきた意見を文章にまとめることが難しいため、そのようにさせていただく。

(3) 行政経営の方向性について

(事務局より、資料3「行政経営の方向性について」について説明)

○ 委員からの意見はなし

7 議事

(1) なりたいまちの姿(都市像)について

(事務局より、資料4「なりたいまちの姿について」について説明)

○ 大久保会長

3つの案から1つに絞っていく。他の文言を組み合わせることも含めて検討していただきたい。

○ 清原委員

これは、なりたいまちの姿のキャッチコピーに関する議論なのか。

○ 事務局

一言で表すキャッチコピーは別に議論する。これはあくまでも3つの方向性を一言で示した言葉になる。

○ 清原委員

「なりたいまちの姿」として示しているということは、ここに書かれていることは、現在の町田市が実現できていない姿という認識でよろしいか。

○ 事務局

なりたいまちの姿の候補は、ワークショップで出された意見を基に作られている。必ずしも現在の町田市がなりたいまちの姿ようになっていないということではない。

○ 大久保会長

3つの候補の中から1つに絞っていききたい。議論をするにあたって、◎は事務局が市民の意見に基づいて推薦している候補であることを念頭に置いていただきたい。「子どもにみんなやさしいまち」は削除してもよろしいか。

○ 深澤委員

「ここでの育ちがカタチになるまち」の意味が分からない。

○ 清原委員

なりたいまちの姿②の「ココチよさが生まれるまち」と、③の「誰もがホッとできるまち」が同じことを示しているように思える。よく考えると①～③のフレーズの違いがよく分からない。

○ 大久保会長

まずは①について議論をしていただきたい。また、このフレーズはまちづくりの方向性の内容と合致するように作られている。

○ 清原委員

まちづくりの方向性の内容がなりたいまちの姿のフレーズに十分に反映されていない。

○ 三輪委員

「カタチ」は自己実現することを意味しているのか。

○ 事務局

漢字で「形」と表記すると有形のものを想起されると感じたため、あえてカタカナで表記している。

○ 三輪委員

結実するということか。

○ 事務局

その通りである。

○ 大久保会長

「ここでの育ち」は「ここでの成長」と置き換えても良いのか。

○ 深澤委員

「未来への希望」は「未来への」は不要であると考える。

○ 大久保会長

なりたいまちの姿①は、「ここでの育ちがカタチになるまち」をたたき台にしても良いか。よろしければ、「育ち」を「成長」に変えることに意見はないか。

他のフレーズを言葉を足しても良い。

○ 清原委員

言葉遣いを優しくしたいという事務局の意図があるのであれば、現状の通りで良いと考える。

○ 大久保会長

そのような意図であれば、ひらがなで表記しても問題ないと考えます。

○ 櫻本委員

「育ち」と表記すると高齢者が対象に当てはまらなくなると考える。①の対象は子どもに絞るのか。

○ 大久保会長

対象を子どもだけに絞るようなことはない。

○ 櫻本委員

私は「子どもにみんなにやさしいまち」が良いと感じている。他の2つは高齢者には当てはまらないのではないかと。

○ 大久保会長

恐らく「育ち」を変える必要があるのではないかと。例えば、「学び」という文言に変えても良い。子ども以外の人にも対象になるような形で、「育ち」という文言を変えていきたい。

○ 櫻本委員

「日々」や「毎日」という文言に変えてはどうか。

○ 小野委員

私は「成長」という文言で問題ないと考えます。

○ 大久保会長

「日々」も良い案であるが、文章がおかしくなるため控えることとする。

○ 小林委員

「成長がみんなの形になるまち」とすれば、対象を子どもに限定することはなくなる。

○ 大久保会長

まとめると、「ここでの成長がみんなのカタチになるまち」という意見がでてくる。

○ 芳賀委員

直感ではあるが、「希望」という文言に固さを感じる。「みんなの夢がカタチになる」でも良いのではないかと。

○ 大久保会長

今の意見を踏まえて、「ここでの成長とみんなの夢がカタチになる」とすることもできる。

櫻本委員

「カタチ」はどのようなイメージで用いているのか。

○ 大久保会長

先ほど事務局に説明いただいたが、再度説明して欲しい。

○ 事務局

「カタチ」というのは有形のものではなく、自己実現のようなことを指す。

先ほどいただいた意見で、「みんなの夢がカタチになる」も我々が作成したフレーズと同じ方向性であると思うため、問題ないと考える。

○ 大野委員

文字に起こさないとフレーズを比較できない。

○ 三輪委員

長いフレーズになっているのではないか。また、「成長」や「夢」に硬さがあると考ええる。

○ 事務局

市民からの意見として、フレーズは短くまとめた方が良いと言われている。

○ 大久保会長

少しニュアンスが変わるが、「ここでの成長がみんなの夢をカタチにする」とすれば短く収めることができる。

○ 三輪委員

「夢」はひらがな表記か。

○ 大久保会長

それはどちらでも良い。

○ 大野委員

そのフレーズでも長いと感じる。

○ 野澤委員

「夢になる」という文言に意味はあるのか。まちづくりの方向性①に準拠したものであることから、「夢」という文言にこだわる必要はないと考える。

○ 大久保会長

「ここでの成長がカタチになるまち」が複数の委員から賛成していただいた意見である。特に意見がなければこの案で決定したい。(委員からの異論なし)

次に、なりたいまちの姿②の議論に移る。「ちょっといいちょうどいい暮らしができるまち」と「わたしのちょうどいいをデザインするまち」を候補から外すことについて意見を伺いたい。

○ 三輪委員

「まちづくりの方向性」と「なりたいまちの姿」はセットで表記するフレーズなのか。セットで表記する場合は、「まちづくりの方向性」と似た文言を用いているフレーズは避けるべきである。

- 事務局
資料6の13ページと17ページにある通り、ページを跨いで表記する。
- 三輪委員
市民がこの冊子を見ることはあるのか。
- 事務局
市民が見るのは概要版やPR版の冊子になると思われる。
- 大久保会長
「ココチよさが生まれるまち」に絞って議論を進めてもよろしいか。(委員からの異論なし)
それでは、「ココチよさが生まれるまち」について意見を伺いたい。
- 小林委員
「ココチよさが生まれるまち」とあるが、「生まれ続ける」や「たくさん生まれる」という表現の方が良いのではないか。
- 三輪委員
「私が」ココチよくなることを強調しても良いのではないか。町田市がココチよくなっていく個々の市民の集合体になるイメージになる。
- 大久保会長
このフレーズを見た市民に刺さる表現にすることが大切である。例えば、「私のココチよさが生まれ膨らむまち」とすることもできる。
- 大野委員
「私の」を用いるのであれば、「デザインできるまち」を採用して、「わたしのココチよさがデザインできるまち」とした方が良い。
- 大久保会長
それも良い意見である。まとめると、「わたしのココチよさがデザインできるまち」という意見が出た。「わたしのココチよさをデザインできるまち」とすることもできるが、どちらにするか。
- 大野委員
「わたしのココチよさがデザインできるまち」とすると「ココチよさ」が強調されるため、「わたしのココチよさをデザインできるまち」とする方が良い。
- 小林委員
「デザイン」の定義を教えていただきたい。
- 事務局
高校生から将来設計ができるまちにして欲しいという意見が出ており、美術的なことではなく、広い意味でのデザインを意味している。
- 大久保会長
「デザイン」以外にも適した文言があれば、意見を出していただきたい。

- 深澤委員
 そのようにすれば、カタカナが2つになる。「デザイン」でなくとも何かを作ることを示す文言があれば良いと思う。
- 大久保会長
 「つくるまち」と「つくれるまち」ならどちらの方が良いか。
- 深澤委員
 「ココチよさがつくれるまち」が良いのではないか。
- 三輪委員
 下段の説明文に「希望が叶った」とあることから、「わたしのココチよさを叶えるまち」も良いのではないか。
- 大久保会長
 「叶える」はひらがな表記の方が意味を広げると考えるが、どちらが良いか。
- 三輪委員
 ひらがな表記の方が良いと考える。
- 大久保会長
 「デザイン」を「つくる」や「かなえる」にする案が出ている。これらから絞っても良いか。
- 三輪委員
 若い人に対してはデザインという表現でも伝わると思う。
- 芳賀委員
 「かなえるまち」について、他のフレーズが「～が…まち」とあることから、「ココチよいまちがかなえられるまち」としてはどうか。
- 大久保会長
 「～が…まち」という表現で統一するという意見であった。
- 三輪委員
 表現を統一する意見を良いと思う一方で、今のような表現の場合、誰かに叶えてもらうような受動的な印象を受ける。
- 小林委員
 「私のココチよさがかなうまち」ではどうか。
- 三輪委員
 その方が良いのではないか。
- 大久保会長
 特に異論がないようなので、「私のココチよさがかなうまち」に決定しようと思う。
 なりたいまちの姿③に関する議論に移りたい。「誰もがホッとできるまち」に絞ることに
 ついて議論していきたい。

- 櫻本委員
2番目の「ありのまま」という文言が良いと思う。「誰もがありのまま暮らせるまち」としてはどうか。
- 小林委員
カタカナ表記の文言が無くなりましたね。
- 三輪委員
カタカナは絶対に用いなければならないのか。
- 大久保会長
カタカナを無理に用いるとするならば「誰もがありのままにホッと暮らせるまち」になる。
- 大野委員
「誰もが」と「みんなに」と表記しなかったのはなぜか。方向性では「みんな」という表現を使っているが、どう違うのか。
- 大久保会長
「誰もが」の代わりとして、「一人ひとり」をカタカナにして用いても良いのではないか。
- 深澤委員
「ホッと」のように幸福感のある言葉が用いられている方が良い。そのような意味では「ありのまま」はふさわしくないのではないか。
- 清原委員
キャッチコピーではなく、文章のタイトルとしてこのフレーズを用いるのであれば、事務局が提案している「誰もがホッとできるまち」でも良いのではないか。
- 事務局
フレーズで全ての意味を分からなくても、下段の説明文を見て意味を理解していただければ良い。そのため、興味を引くような言葉であることが好ましいと考えている。
- 大久保会長
「多様性」という意味で「ありのまま」という言葉を残してはどうかという意見がある。その点について意見はあるか。
- 清原委員
事務局としては、ありのままだからホッとできるという話をしているので、説明文を読めば問題ない考える。
- 大久保会長
「誰もがホッとできるまち」とするか、それに「ありのまま」を加筆するかについて決めたい。
- 安達委員
「誰もがホッとできるまち」で良いのではないか。
- 大久保会長
他に意見がないようなので、③は「誰もがホッとできるまち」にしようと思う。「誰もが

に多様性の意味を含ませていると理解していただきたい。事務局はこれで良いか。

○ 事務局

これで問題ない。

(2) 行政経営のあり方（経営像）について

(事務局より、資料5「行政経営のあり方」について説明)

○ 大久保会長

3つの候補から1つに絞っていくための意見を伺いたい。

○ 大野委員

カタカナは必ず用いなければならないのか。「カチ」は「勝ち」に思えることから控えた方が良い。また、「イロ」もカタカナにすることはそぐわないと考える。

○ 深澤委員

これからの時代、効率的な行政経営が必要になり、そのためには市民に我慢を強いる場合もあることについて記載する必要があると感じている。下段の説明文では、現状の行政経営がこれからも継続できるように書かれている。時代が変わっていくことをストレートに示しても良いのではないか。また、その中で市民と共に協力しながら効率的な行政経営をしていくことを記載すれば良いと考える。

○ 事務局

現実的なことについては基本計画レベルの議論になる。今は基本構想の内容を検討する段階であることから、ポジティブな内容になっている。

○ 清原委員

◎の「多様なカチが生まれる」というのは言葉の使い方がおかしいのではないか。

○ 事務局

多様性が増す社会の中で、今後も地域の特性に合ったまちづくりをしていくことを示したいと考えている。

○ 清原委員

それは多様な解決をすることであって、「カチ」を生むことではない。今までの単一の行政サービスでは価値が無くなるという趣旨のフレーズになっている。「カチ」という言葉を使いたいと思われるが、使い方を再考した方が良い。

○ 事務局

様々な意味を込めようとして「カチ」という言葉を用いた。

○ 清原委員

そもそも行政は価値を生む立場なのか。また、「多様」という文言を多く使っているように感じる。

- 事務局
様々なサービスを提供していくためには行政だけではない様々な主体と共創していく必要があることを示したいと考えている。
- 清原委員
そのような事務局の意図が伝わらない文章になっている。
- 三輪委員
「カチ」は漢字で表記する方が好ましいと感じるが、「カチ」を用いるとすると、「多様な共創による新たな価値につながる経営」のようにすれば良いと考える。また、「カチが生まれる」という言葉は行政経営には向かないと考える。
- 小林委員
説明文の中に「投資したくなる」とあるが、お金を投入したくなるという意味で用いているのか。
- 事務局
その通りである。
- 小林委員
共創する主体に価値があるから投資したくなるのか、投資が集まるからその主体の価値が上がるのかが分からない。
- 事務局
どちらかと言えば前者の方にあたる。
- 清原委員
説明文1行目にある「価値観」という言葉は用いない方が良いと思われる。行政経営によって新たに価値が生み出されるような書きぶりをする必要がある。
- 大久保会長
これまでの議論を踏まえると、町田市はスマートコミュニティ化を目指していると考えられる。カタカナを用いることにこだわるのであれば、そのような意味で「スマートな経営」としても良いのではないかと。
- 三輪委員
「イロ」は「カラー」と表記しても良いのではないかと。
- 大久保会長
町田市の「イロ」というのはどのようなものを指すのか。例えば「商都」があると思われる。
- 事務局
地域毎の特性を生かすようなことを考えている。
- 大久保会長
前回の審議会で行政経営のあり方のフレーズに関する議論をしていなかったこともあり、なかなか議論を深めることができずにいると感じている。

○ 事務局

前回の審議会では、第1回町田市行政経営監理委員会で示されたコラボレーション、スマート、ブランディングをイメージした3つのフレーズを掲げるつもりであったが、その後一つに絞ることにしたため、本日審議会の場で議論をしていただいている。

○ 大久保

スケジュール上、このフレーズを決定するのは次回の審議会ではいけないのか。3つの柱から1つを絞ることはできるが、その1つの細かな文言まで決定することは困難であると考えます。

○ 清原委員

事務局の方で「多様な」に続くカタカナの文言を再考していただいているかどうか。

○ 大久保会長

次回の審議会で、事務局が推薦する「共創により多様なカチが生まれる経営」を中心に議論しながらフレーズをまとめていく。

○ 三輪委員

前回の審議会で行政経営のあり方について議論していた際に、伝統文化に関する話が出ていた。資料5は資料3の「行政経営における重要な視点」の①～③をまとめたものになるため、「伝統文化等を基盤にしながら共創していく」のような文章がすくなくとも資料5の説明文に入るはずである。

○ 事務局

たしかに伝統文化については議事録の9ページに記載されている。これは「なりたいまちの姿・行政経営のあり方について」の項目にあたる。

○ 事務局

伝統文化や商都については「まちづくりの方向性」で説明していき、「行政経営のあり方」では、そのまちづくりを実現するために必要なことを説明していく。

○ 三輪委員

理解した。

○ 大久保会長

他に加筆したいことはあるか。（委員からの意見なし）

本日のところはこれまでにし、次回に「共創により多様なカチが生まれる経営」を中心に議論を進めることとする。事務局は、本日の議論を踏まえて資料5の下段の説明文を修正していただきたい。また、フレーズの「多様な」に続くカタカナの文言を再考していただきたい。

○ 事務局

承知した。

(3) 基本構想の骨子案について

(事務局より、資料「(仮称) まちだ未来づくりビジョン2040(案)」について説明)

○ 大久保会長

町田市の特長や社会経済状況の変化の書きぶり、冊子としての見せ方について意見はあるか。

○ 芳賀委員

参考資料1にあるイメージを基に資料6が説明されるのか。参考資料1の図の使い方はどうなるのか。

○ 事務局

資料6の2ページ目に盛り込む予定である。

○ 芳賀委員

現状だと分かりづらいと感じた。

○ 大久保会長

資料6の冊子の最後のページは白紙になるのか。参考資料1の図表を加えても良いのではないか。

○ 事務局

冊子の最後のページは白紙になる。

○ 大久保会長

参考資料1はどこかに含めた方が良いため、是非そのようにしていただきたい。

○ 事務局

ただいまいただいたご意見に則して修正していきたい。

○ 三輪委員

庁内で共有するバージョンと広く市民に理解してもらうバージョンでは、見せ方が異なる。市民にとっての見やすさを考えると、最初に結論があっても良いのではないか。

また、A4の見開きを上手く使って模式図等を入れると分かりやすくなると思われる。

○ 大久保会長

目次を変更することはできるか。

○ 事務局

まずは固い表現で作成し、市民向けのバージョンでは構成を工夫する。

○ 大久保会長

硬い表現で構成された冊子は市議会議員たち向けに作成し、市民には見やすさを重視した冊子を見てもらうと良い。

○ 事務局

3月の議会では現状の冊子を用いるが、翌年度は目次の並べ替えをしていき、見やすくした冊子を審議の場に出していきたい。

○ 清原委員

前段で説明している町田市特性・社会経済状況の変化が、後段の内容に結びついていない。例えばA I・I o Tの話は後段に出ていない。市民ワークショップの結果など、「こうなりたい」という内容を前に入れた方が良いのでは

○ 大久保会長

この資料6の冊子のページ数はさらに増えていくのか。

○ 事務局

資料6は案の段階のものであるため、ページ数を調整することはできる。

○ 大久保会長

13～16ページでは、もう少し図面を含めて審議会の意見をまとめていくという方向で良いか。（委員からの異論なし）

○ 芳賀委員

基本構想の前段に市民ワークショップ等の議論を経て策定したことを分かるようにすると良い。また、2040年にこの計画を振り返ることができるように、策定までの過程が分かるようにしてほしい。

○ 大久保会長

13ページの前に、策定までの経緯を一つの章としてまとめることになると思う。

○ 三輪委員

審議会の議論されたことや市民の意見を裏付けるデータを掲載した方が良い。

○ 大久保会長

事務局の負担を減らす意味でも、今のような意見が他の委員からもあれば、各自で事務局に送付していただいても良いか。

○ 事務局

事務局の方で現在いただいている意見も踏まえて修正案を提示する。

8 その他

(1) 現行計画に対する市民意見について

(事務局より、資料7「まちだ未来づくりプランに関する請願一覧」について説明)

○ 大久保会長

図書館や公共施設について、複合化や多機能化の必要性が増してくると思われるが、その点についてご意見をいただきたい。

○ 三輪委員

恐らく公共施設の立地適正化に関する議論をすることになると思うが、中心部と郊外で話が変わってくるため、この場で結論を出すことは困難ではないか。

民間施設の代替利用等が必要になるとと思われるため、行政経営について議論する際にその点について議論をしても良いのではないか。

○ 大久保会長

この場で議論することではないが、これは財政の話にも関連してくると思われる。

○ 清原委員

公共施設及び公共交通に関する請願があるが、資料7から読み取れるのは、財政的な余裕があるか否かという話であり、先ほどの共創によるまちづくりとは離れている気がした。市民との共創によりこの課題を解決するといった方向に持っていく方が良いのではないか。

○ 大久保会長

この委員会で、市民との共創による解決方法について知恵を拝借したいということであると思う。

○ 清原委員

図書館を例に挙げれば、市立の図書館を廃止して、各所に地域の人が主体となって本を配送する場を設けることも可能である。

(2) キャッチコピーの検討状況について

(事務局より資料8「2040なりたい未来のキャッチコピー検討状況」について説明)

○ 大久保会長

次回の審議会で、キャッチコピーはどこまで絞り込んでいくのか。

○ 事務局

4月末の審議会では数を5つまで絞り込んで提示し、委員の議論によって3つに絞りこんでもらう。

○ 大久保会長

最後に他の委員から意見はあるか。

○ 大野委員

まちづくりの方向性について、「多様な価値を尊重し支え合うことができる」とあるが、「価値観」という文言を用いた方が良いと考える。

9 閉会

○ 事務局

本年度の審議会は本日で終了となる。次回の審議会は4月28日(火)15:00~17:00に会議室2-1で開催する。